平成２１年度　学校評価自己評価表

（ 中間・最終 ）

世羅町立大見小学校

a学校教育目標	夢をいだき，自己実現に向けて学び続ける児童の育成	a経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）　地域とつながり，地域に貢献する人材の育成 【ビジョン】（自校の将来像）　家庭・地域と連携し，特色のある教育活動を行う学校

評価計画						自己評価									学校関係者評価				改善計画
	b中期経営目標	c短期経営目標	d目標達成のための方策 （こんな取り組みをして達成します）	e評価項目・指標 （評価を見とる目安）	f 目標値	評価基準				7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j結果と課題の説明	k評価 イ	k評価 ロ	k評価 ハ	l コメント	m改善案
						4点	3点	2点	1点										
確かな学力の育成	小中連携を深め，確かな学力を身につける。	(1) 作文教育を充実させる。	○文章表現力の育成 ※観点別評価表を活用し，習得が図られたか。	観点別評価表の項目の達成率	70%	70%以上	60%	50%	50%未満	69%	72%	102%	4↑	評価項目を5観点に絞り焦点づけた指導や個に対応した指導ができている。	3			作文朗読集会で，学年を越えての学習の場が効果的であると思う。 作文力については，レベルが高いと思います。 豊かな感性が，文章で伺えます。	評価項目を絞って指導をしたことは有効であった。 個々の課題に対応した指導を継続する。
			○言語技術の習得と活用 ※言語技術を生かした発言の質的向上がみられたか。	作文朗読集会での発言のうち言語技術を生かした発言の割合 〈作文朗読集会の発表内容〉	80%	80%以上	70%	60%	60%未満	83%	65%	81%	2↓	言語技術の短冊を利用し言語技術を意識した発言ができてきている。下級生も上級生に習って上達している。低学年の発言力向上により評価基準をやや厳しくしたため達成率が低下した。	3				発言の観点を具体的に示すことで，質的向上が図られた。評価の基準を明確にし，レベルアップを図る。
		(2) 特別支援教育を充実させる。	○校内委員会の充実 ※校内委員会を通して特別支援教育の充実が図られたか。	有効な指導方法・支援方法の開発（学期に1つ以上）	100%	100%	80%	60%	60%未満	100%	100%	100%	4→	講師招聘や先進校視察による研修により，各学年とも有効な手だてを見つけることができた。定期的な校内委員会の実施により情報交流が活発化した。継続して取り組む。	2		1		校内委員会と研修の充実により，特別支援教育の充実が図られた。有効な手立てを全員で共有していく。
豊かな心の育成	全教育活動の中で豊かな心を育てる。	(1) 基本的生活習慣の定着を図る。	○気持ちの良いあいさつと返事の奨励（小中連携） ※あいさつレベルを設定し，意識化を図り，高揚が図られたか。	毎月10日間行う「ふり返りカード」で平均が2点（6年生は3点）以上つく児童が80%以上 〈振り返りカード：毎月10日間実施，教職員による評価〉 ★2学期は，平均が2．5点（6年生は4点）以上つく児童が80%以上に変更	100%	100%	80%	70%	60%未満	98%	88%	88%	3→	2学期は評価指標を「1～5年生は2．5点」「6年生は4点」に上げて取り組んだ。引き続き，小中連携によるあいさつ向上に取り組む。	3			保護者，地域住民を適宜授業参加させ，効果的である。 意識を高めることにより，あいさつの大切さも感じてもらいたい。	評価指標を引き上げ，あいさつレベルの向上に努めることができた。今後も継続した指導を行う。
			○3点固定（起きる時刻，勉強をする時間，寝る時刻）の取り組みを徹底（小中連携・生活リズムを確立） ※3点固定を行う児童を80%以上にできたか。	毎月10日間行う「ふり返りカード」で該当項目に○がついている割合が90%以上の児童が80%以上 〈振り返りカード：毎月10日間実施，教職員による評価〉	100%	100%	80%	70%	60%未満	84%	80%	80%	3→	3点固定のうち，寝る時刻が遅くなる傾向がある。個への指導や家庭との連携による改善を図る。	3				寝る時刻が遅いのが課題である。個別の指導と家庭を巻き込んだ指導を継続する。
		(2) 道徳教育の充実を図る。	○道徳的心情や実践力の向上 ※道徳の時間を工夫することができたか。（月1回以上）	道徳アンケート「道徳の時間を工夫することができたか」の割合 〈授業工夫の内容〉	100%	100%	80%	60%	40%未満	60%	100%	100%	4↑	全学級で地域の教材化に取り組み，地域公開を行った。 自分の気持ちを書く活動を必ず取り入れ，焦点化した取り組みができた。道徳の授業を楽しいと感じている児童80%	3				全学級で地域を素材とした道徳資料をつくり，授業を行った。授業の中で書くことを大切にし，考えを深める指導を行った。
		(3) 読書活動の充実を図る。	○読書を通して語彙力の向上と豊かな感性の育成 （読書好きな子ども） ※学年に応じて継続的に工夫した読書指導を行うことができたか。	読書好きな子どもを育てるための学年別指導項目の実施率 （指導工夫の内容・児童実態） ※上段　1～3年の読み聞かせ実施率，下段　4～6年目標冊数進行状況	100%	100%	90%	80%	80%未満	100%	100%	100%	4→	全学年工夫した読書指導を行うことができた。 （1～3年生は読書タイムの読み聞かせ実施率） （4～6年生は学年の推薦図書の目標冊数完了者の割合）	2		1		低学年は読み語り，高学年は推薦図書を読む取り組みをした。読書好きな児童を育てる手立ての交流をする。
											85%	85%	2						
健やかな体の育成	食育の充実と体力の向上を図る。	(1) 体力を向上させる。	○業間体育の充実 【持久走，8秒間走，外遊び，班遊び，縄跳び】 ※記録を取り目標意識を持たせて取り組み，記録向上が図られたか。 （毎回記録し，週のベストタイムのグラフ化）	持久走で4月の最高タイムを更新することができた児童の割合（評価7月・10月） （記録数値の増加ポイント） ★2学期は，1学期の最高タイム更新に変更　★11月から校内マラソンコースにコース変更 ※上段　中間評価：基準，下段　最終評価：基準	90%	90%以上	80%	70%	70%未満	58%		53%	2↑	走力別追い抜き走を取り入れ改善を図ったが，4月の最高タイムが良いこと，更に1学期最高タイムの更新に変更したことにより，記録更新が難しかった。目標をはっきり持たせて取り組むことはできた。	3			「継続は力なり」これでよいと思う。 外遊び，班遊び，自由遊びもしっかり取り入れてやりたい。 持久力が上がってきている様子がはっきり見られた。長い距離を走る時のフォームを指導できればよい。 引き続き，体力向上を目的に続けて欲しい。 子どもたちの健康に関して，きめ細かい指導で，インフルエンザ対応にも良かったと思う。	記録の更新は難しかったが，喜んで走り続ける姿が見られた。
					70%	70%以上	60%	50%	50%未満		53%								
				8秒間走で4月の最高タイムを更新することができた児童の割合（評価7月・11月） （記録数値の増加ポイント）　★2学期は，1学期の最高タイム更新に変更 ※上段　中間評価：基準，下段　最終評価：基準	90%	90%以上	80%	70%	70%未満	94%		52%	1↓	4人が一緒に走ることで，他人と競争でき，スタート位置から自分の目標も明確に持つことができたので，意欲的に走ることができた。1学期の最高タイム更新に変更したため記録更新に至っていない。	3				日々高い目標意識を持って8秒間走に取り組むことができた。今後も仲間とも走ろうとする意欲を大切に育てたい。
					70%	70%以上	60%	50%	50%未満		47%								
				前回し跳びで目標タイムをクリアできた児童の割合（評価1月） （1年‥1分　2年‥2分　3年‥3分　4年‥4分　5年‥5分　6年‥7分） （記録数値の増加ポイント）	90%	90%以上	80%	70%	70%未満		65%	72%	1	全校平均で65%の児童が目標タイムをクリアした。（1月末の時点）インフルエンザの流行により公式の記録会は，延期（2・3月実施）	3				児童が跳ぶ時間や新たな技への意欲を持って練習を続けている。
		(2) 食育の充実を図る。	○年間計画に沿った活動の実践 （食事の重要性，排便の重要性，適切な食事の内容や量） ※バランスの良い食事，排便の習慣化が図られたか。	毎月19日に行う「朝食・排便調べ」でバランスのよい朝食を摂取した児童の割合 〈アンケート：毎月19日実施・達成ポイント〉	80%	80%以上	70%	60%	60%未満	85%	89%	111%	4→	保健指導や夏休み・冬休み前の保護者啓発や親子朝食づくりなどで，バランスよい朝食の摂取は目標を達成した。今後も継続して，取り組む。	3				バランスの良い食事をする習慣を身につけるため，家庭を巻き込んだ指導の充実を図ることができた。
				毎月19日に行う「朝食・排便調べ」で1日1回排便があった児童の割合 〈アンケート：毎月19日実施・達成ポイント〉	80%	80%以上	70%	60%	60%未満	75%	79%	98%	3→	排便の大切さや排便を促す方法などを指導し，目標はほぼ達成した。今後も継続して，取り組む。	3				指導の充実により成果が上がってきた。課題の多い児童への個別の指導をする。
信頼される学校	学校の説明責任を果たし，信頼される学校をつくる。	(1) 地域，保護者へ学校情報の公開に努める。	○学校や学級の経営方針を伝える。 ※月1回「学校だより・保健だより，HP更新」，月2回以上「学級だより」を発行（発信）できたか。	学校便り，保健便り，HP更新，学級だより（6学級）の毎月の発行（発信）・更新 （毎月15項目）	15項目	15項目以上	10項目～14項目	6項目～9項目	5項目以下	15項目	15項目	100%	4→	学校便り，保健便り，HP更新は毎月，学級だより（6学級）は月2回以上達成できた。今後も内容を吟味しながら発行（更新）を行う。	3			多忙な中でこの上ない取り組みがなされていると思う。	計画的に情報の公開に努めることができた。情報の内容の満足度をつかみ，内容の充実を図る。
		(2) 特色ある教育の推進を図る。	○地域の教育力を活用した「ふるさと学習」の推進 ※地域（自然・文化・歴史・人材）を生かした「ふるさと学習」が推進できたか。	ふるさと学習のために地域に出かけた日数と指導を受けた人の数の合計（学期末） 〈ふるさと学習への取り組み状況〉	10回	10回以上	8回～9回	5回～7回	4回以下	19回	31回	310%	4→	実施回数に差があったが，各学級とも実施できている。地域人材や地域の教育力を活用した授業の充実を図る。	3				地域人材や地域の教育力を活用した学習を行った。地域が好きだという児童も増えている。学習の効果を計る指標を検討する。
		(3) 学校評価の精度を高める。	○方策進行管理の計画的な実施（年間5回） 【目標意識・重点化・明確化】 ※評価の方策進行管理を行い（年間5回），システムの充実と改善を図ることができたか。	計画した時期に評価回数（評価・改善） （5月末，7月末，10月末，12月末，1月末）	5回	5回	4回	3回	2回	2/5回	5/5回	100%	4→	予定通り実施できた。 学校評価の精度向上に向けて改善を図る。	3				計画的な評価をすることができた。課題の分析と改善策の質的向上を目指す。

【自己評価　評価】　※上記評価基準表
4：（目標達成）　3：（ほぼ達成）
2：（もう少し）　1：（できていない）

【学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。　ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。